



ロベール・ブレッソン監督作品

# バルタザールどこへ行く

AU HASARD BALTHAZAR

Réalisation : Robert Bresson Scénario : Robert Bresson Musique : Jean Wiener et Schubert Image : Ghislain Cloquet Caméra : Jean Chiabaut  
Distribution : Anne Wiazemsky Walter Green François Lafarge Jean-Claude Guilbert Philippe Asselin Pierre Klossowsky Nathalie Joyaut Marie-Claire Frémont  
© 1966 Argos Films - Parc Films - Athos Films - Svensk Filmindustri Restoration and digitalization with the support of the CNC





少女マリーと聖なるロバが辿る無慈悲な運命。  
巨匠ロベール・ブレッソンによる、  
映画史に輝く至高の傑作。

巨匠ロベール・ブレッソンが長年映画化を望んだ、聖なるロバ“バルタザール”をめぐる現代の寓話。ドストエフスキーの長編小説『白痴』の挿話から着想を受け、一匹のロバと、少女マリーとの数奇な運命を描きだす。純粋さから悪の道へと堕ちていく少女マリーを演じるのは、当時17歳のアンヌ・ヴィアゼムスキー。その後『中国女』（1967）などゴダール作品に数々出演することになる彼女にとって、これが初の映画出演作となった。ブレッソンの意を汲み、完璧に抑制され尽くした映像は、『夜と霧』（1955）『ロシュフォールの恋人たち』（1967）等で知られる名撮影監督ギスラン・クロケの手によるもの。緊張感溢れる画面が、この崇高な悲劇を美しくも冷酷に映し出す。ヴェネチア国際映画祭審査員特別表彰をはじめ数々の映画賞を受賞し、いまでも多くの映画人を魅了しつづける、映画史に残る最高傑作。

### ものがたり

小さな農村で、農園主のジャックと幼なじみのマリーは、生まれただけのロバに「バルタザール」と名づけ可愛がる。だが年月が経ち、バルタザールは別の飼い主のもとへ。やがて逃げ出したバルタザールは、美しく成長したマリーと再会し、まるで愛し合う恋人たちのように慰め合う。だが運命は、バルタザールにもマリーにもあまりにも過酷な試練を与えていく。マリーの両親は誇り高さゆえに没落し、マリーは不良少年ジェラルドに拐かされ悪徳の道に落ちていく。バルタザールもまたマリーのもとを引き離され、次々と人手に渡っていく…。

## バルタザールどこへ行く AU HASARD BALTHAZAR

監督・脚本 | ロベール・ブレッソン 撮影 | ギラン・クロケ 美術 | ビエール・シャルボニエ 音楽 | シューベルト、ジャン・ヴィーネル 編集 | レーモン・ラミー 製作代表 | マグ・ゴダール (バルク・フィルム)  
4Kリマスター カラーグレーディング | クリスティアン・ボスケ  
出演 | アンヌ・ヴィアゼムスキー フランソワ・ラファルジュ フィリップ・アスラン ナタリー・ジョワイヨウ ヴァルター・グリーン ジャン＝クロード・ギルベール ビエール・クロソフスキー ロバのバルタザール  
1966年 | フランス・スウェーデン | 96分 | モノクロ | スタンダード 配給 | コピアポア・フィルム + les fugitives © 1966 Argos Films - Parc Films - Athos Films - Svensk Filmindustri

1966年ヴェネチア国際映画祭 審査員特別表彰・イタリア批評家賞・国際カトリック映画事務局賞受賞  
1966年フランス映画批評家協会賞 ジョルジュ・メリエス賞受賞

限定 **4K** 上映



1月 23 日 [土]・24 日 [日]

1/23 (土)	13:00- 少女ムシエット 14:40- バルタザールどこへ行く	1/24 (日)	13:00- バルタザールどこへ行く	鑑賞料金 ▶1,500円均一
----------	--------------------------------------	----------	--------------------	-------------------

\*1/23 (土) 14:40の回上映後、三宅唱 (映画監督)+五十嵐耕平 (映画監督)+松井宏 (映画プロデューサー) によるトークショー

映画批評家・廣瀬純 本編上映並行分析『少女ムシエット』1/24 (日) 15:10より  
※鑑賞を目的とした上映ではありません。参加費：1,000円均一

恵比寿ガーデンプレイス内  
東京都写真美術館ホール  
TEL 03-3280-0099 (代表)